フィリア・レター

～真の友人からの手紙～

発行：中部ろうさい病院
〒455-8530
名古屋市港区港明 1-10-6
TEL 052-652-5511
FAX 052-653-3533
http://www.chubuh.johas.go.jp/

「かかりつけ薬局」を持ちましょう！

薬剤副部長　重共　孝一

社会の高齢化が進み、ご高齢の患者さんが複数の疾患を抱えて複数の病院に通院している光景をよく目にします。その場合、それぞれ違う薬局でお薬を受け取っていませんか？そのせいで同じ薬が重複して処方されてしまうケースがあります。自分の体質や病歴などを把握している薬剤師に相談することができたらきっと、安心して薬を服用できますよね。「かかりつけ薬局」とは、安心して薬を飲むための制度なのです。

もう少し詳しく「かかりつけ薬局」のことを説明します。かかりつけ薬局は、患者さんの服用歴や現在服用中の全ての薬に関する情報を一元的・継続的に把握してくれるので、複数診療科を受診した場合でも、重複投薬や相互作用を防止してくれます。また、薬の副作用や効果についても継続的に確認してくれるので、在宅で療養する患者さんにも、入院中の患者さん同様の行き届いた薬学的管理を受けることができます。

かかりつけ薬剤師から丁寧に説明をしてもらうことで薬への理解が深まり、飲み忘れ、飲み残しが防止され、残薬の確認もしてもらえます。また、薬について不安なことはいつでも電話等で相談できますし、健康食品，サプリメント類などの飲み合わせについても相談にのってくれます。

当院でも９月から、院外処方箋に患者さんの検査値データを掲載するようにしましたので、かかりつけ薬局でより詳細な処方チェックを行えるようになり、患者さんに一層安心して薬物治療を受けていただけるようにいたしました。

健康を支える最も身近な医療提供施設として、「かかりつけ薬局」をぜひ利用しましょう。

今月号のお知らせ

1「かかりつけ薬局」を持ちましょう！
………………………………薬剤副部長　重共　孝一
2内視鏡検査の現状と受診方法について
……………………第三消化器内科部長　宿輪　和孝
3顎変形症への外科的矯正治療について
…………………第二歯科口腔外科部長　鶴迫　伸一
4第13回市民健康セミナーの開催報告
…………………………呼吸器外科部長　菅谷　将一
5私が車いすで復職できたワケ
……………………………………………　西谷　孝一
6院内行事開催記録
「中部ろうさい病院糖尿病週間イベント」のご案内
第14回市民健康セミナーのご案内
病院の理念・当院の基本方針　編集後記

医師

内視鏡検査の現状と受診方法について

第三消化器内科部長　宿輪　和孝

この度、平成29年4月に第三消化器内科部長を拝命致しました宿輪和孝と申します。

私は平成12年に産業医科大学を卒業し、平成14年から平成16年にかけて中部ろうさい病院で消化器内科医として指導を受けた後、他病院での勤務を経て平成25年から二度目の赴任でこの病院に戻ってまいりました。

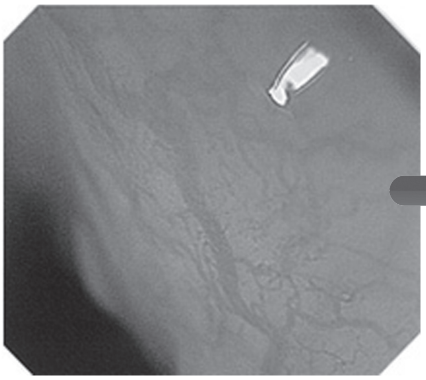
以前と比べ、内視鏡検査数がかなり増加しており（平成28年度実績：上部消化管内視鏡3,932件、下部消化管内視鏡1,737件、内視鏡的逆行性胆管膵管造影187件）、消化器系の疾患で受診される患者さんが増えていると実感しています。

「胸やけ」、「みぞおちの痛み」、「嘔吐」などの症状があった場合、当日朝食を取らずに外来を受診していただければ、予約しなくてもその日のうちに上部内視鏡検査（いわゆる胃カメラ）は可能です（当日の検査状況にもよります）。

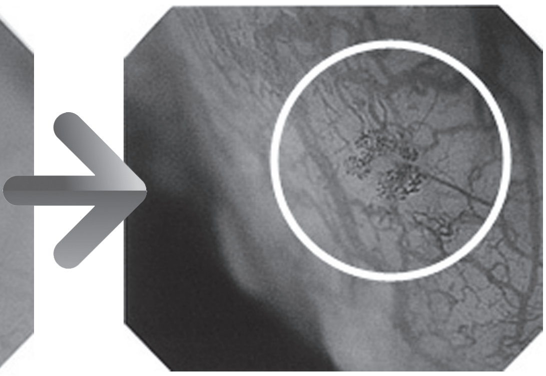
また、「便秘」や「血便」、あるいは健診で便潜血陽性を指摘された際に下部内視鏡検査（大腸ファイバー）を受けていただく場合は、事前に検査の予約が必要となります。予約を取るには、直接当院を受診していただいてもかまいませんが、かかりつけ医がいらっしゃる方は、かかりつけ医から当院の地域医療連携室を通じて検査予約をしていただければ、前処置薬の下剤を当院から手配させていただきますので、検査の希望がありましたら御検討ください。

増え続ける消化器の癌に対して、小さな病変を早期に発見し治療することの重要性が高まる中、内視鏡検査に関しては、従来の光では観察しにくかった小さな病変をより観察しやすくするための技術が進歩しています。「光デジタルによる画像強調」を用いた狭帯域光観察（NBI=Narrow Band Imaging）を行うことで早期癌の発見が可能となっており、当院でも積極的に取り入れております。

地域の皆さんが健康な日常生活を送れるよう手助けできればと考え、日々診療にあたっておりますので、これからもよろしくお願いいたします。



食道の通常光観察画像



狭帯域光観察画像

医師

顎変形症への外科的矯正治療について

第二歯科口腔外科部長　鶴迫　伸一

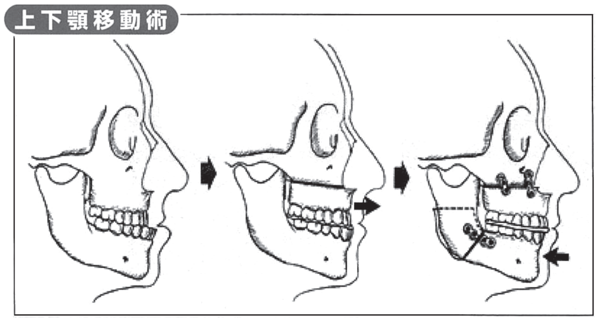
４月より第二歯科口腔外科部長として着任いたしました鶴迫伸一と申します。

歯科口腔外科の診療は、口や顎の手術が必要となる疾患が対象ですが、その多くは埋伏智歯（親知らず）の抜歯などの小手術です。埋伏智歯は叢生（歯並びのガタガタ）、智歯周囲炎、う蝕（細菌で歯が溶けて欠損すること）等の原因となるため抜歯が必要となります。当院では年間約300件の抜歯を行っておりますが、10～20歳代の患者さんが多く、複数の智歯抜歯は、術中に不安や苦痛がないよう麻酔を行い、術後疼痛や後出血で困らないよう翌朝まで入院管理いたします。

また、私の専門は**「顎変形症」の外科的矯正治療**ですが、地域の矯正専門医から紹介いただき年間約50件の顎矯正手術を行っています。「顎変形症」は上下の顎の骨の不調和により咬合不全が起きる疾患ですが、症状が軽度の場合は、最近ではミニスクリューやプレートなどの矯正用インプラント（Temporary Anchorage Device：TAD）を用いて治療できる場合もあり、これを年間約40件行っております。

顎骨の不調和が大きい場合には**顎矯正手術**の適応になります。患者さんのご希望を伺ったうえで、矯正医と外科医で治療計画を立て、半年～１年半かけて術前歯列矯正を行った後に顎矯正手術を行います。全身麻酔をかけて、手術方法は主に上顎はLeFort Ⅰ型骨切り術、下顎は下顎枝矢状分割術（SSRO）を行い、骨片はチタン製ミニプレートで固定します。手術後は約５日間の顎間固定を行い、その間は経口流動食となります。顎間固定解除後は開口訓練を行い、日常生活に支障のない状態で退院となります。

顎矯正手術は手術書にも非常に困難と記載されてきた手術ですが、安全に行うための手術機器の開発、手術手技の改良により標準化され、国内でも年間約3000例の手術が行われております。また、顎矯正手術は矯正治療も含めて健康保険の適用が受けられます。うけ口、お顔のゆがみ、噛み合わせの不具合、顎関節症など、顎変形症の症状は様々ですが、気になるような症状がございましたらお気軽にご相談いただければ幸いです。



上顎にLeFort Ⅰ型骨切り術、下顎に下顎枝矢状分割術を適用

外科的矯正治療によって咬合とともに容貌も改善する

出典：社団法人日本口腔外科学会

医師

第13回市民健康セミナーの開催報告

呼吸器外科部長　菅谷　将一

平成29年７月29日（土）に当院講堂にて第13回市民健康セミナー『心臓病と運動』が開催されました。約140名の方々にご参加頂き、ほぼ満席の大盛況のうちに終了することができました。ご参加頂いた皆様、誠にありがとうございました。

今回は当院循環器内科部長の原田憲先生と名古屋大学大学院医学系研究科教授の山田純生先生がご講演されました。

まず、原田先生から「心臓の病気」という題でお話がありました。代表的な心臓病として不整脈、虚血性心疾患、心不全について、それらの原因、検査方法、治療法などをたくさんの写真やイラストを用いてわかりやすく解説頂きました。まとめとして、心・血管疾患の予防として運動が有効であること、さらに、その運動は定期的に行なうのが良いのですが、週末だけの運動でも効果があるとのことで、会場から驚きの声が上がっていました。

次に山田教授より「心疾患とライフスタイルー運動で長生き、運動で再発予防ー」という題でお話がありました。壇上ではなく聴講者の皆さんの前に出て来られて語りかけるように講演され、一気に会場の皆さんが先生の話に引き込まれました。主に３つの内容についてお話頂きました。

1. 動いている人は本当に長生き？
答え：おそらく、間違いありません。
“健康寿命”も長くなります。
2. 運動で心臓病を防ぐ仕組みは？
答え：時々、早歩きで血管内皮に
“ずり刺激”を！
3. 運動で再発も防げる？
答え：薬の内服と生活習慣の改善を合わせて予防する。カギは運動！

最後に、今からでも遅くはないので少し早歩きを加えた運動を始めて下さい、とのメッセージを頂きました。

講演終了後の質問コーナーでは、時間が足りないほど多くの方々から質問があり、参加された皆様がいかに真剣にお話を聞かれていたかをうかがうことができました。

今回の講演が皆様の健康に対する関心の一助になれば広報委員会をはじめ当病院として大変嬉しく思います。

今後も毎年２回、市民健康セミナーを開催する予定です。当院の患者さんだけではなく、どなたでも参加できますので、これからもご参加頂きますよう宜しくお願い致します。

※次回の市民健康セミナーの開催については６ページにご案内しています。

私の車いす生活　～中央リハビリテーション部・社会生活講座より～

私が車いすで復職できたワケ

西谷　孝一　50歳代　頸髄損傷・不全四肢麻痺

受傷から復職まで

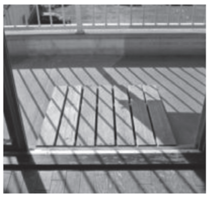
2006年１月、トライアスロンの自転車練習中、単独事故で受傷。２つの病院、リハビリセンター、障害者更生施設を経て、2007年３月より自宅療養に。自宅療養中、週2回障害者職業能力開発（職業訓練）へ２か月間通所。絵手紙教室やアーチェリー教室、車いすテニス教室に通う。2007年11月に復職。

１．障害者更生施設入所中の体験

目的：①日常生活能力の向上
②車いすでの移動能力の向上
③マイカー運転能力の習得
④職場復帰へのアプローチ

【自宅リフォーム】

ドアノブをレバー型に



玄関とベランダにスロープ設置

- ●施設外周のジョギングウエイで車いすを毎日５～６kmこいでいた。
- ●リハビリの他に１日５時限の課題（工作・革細工・体育・切り絵・習字・絵手紙など）
- ●10月中旬からの土日は自宅で過ごす（車いすで約４km自走して帰宅）
- ●愛知頸髄損傷者連絡会に加入して情報収集
- ●日本せきずい基金の書籍、ホームページをチェック
- ●８～９月、自宅リフォーム工事
- ●復職に向けリハセン内の職業能力開発訓練開始
- ●２月マイカー購入
- ●担当職員と復職打ち合わせで職場へ

浴室に洗体台を設置
扉は引き戸に変更

２．自宅復帰～職場復帰に向けて

2007年３月に自宅復帰後も、職業能力開発へ車で通所したり、絵てがみサークルや障害者スポーツの講座に参加しました。通勤・職場環境も整い、同年11月、職場へ復帰！

上肢駆動装置に改造

側溝の穴にふた

車いすがすっぽり！

車いす用トイレに改造

自己の課題点

夏期は勤務中に体温上昇・うつ熱による頭痛でつらく、12月～２月は足の冷えとしびれで固くなる。体力の向上のため障害者スポーツをはじめたいが、仕事と家事でいっぱい、いっぱい。

という言い訳を言っててはダメ！　でも、無理して体調崩し仕事を休むでは本末転倒。
仕事や日常生活がリハビリと考える。いつかは・・・、と夢を持つのもモチベーションととらえる
何か1つでも　みなさんの心に残った事があれば　うれしく思います♪

＊＊＊　中央リハビリテーション部・社会生活講座とは　＊＊＊
入院患者さん向けの生活支援応援会。社会復帰して活躍されている脊髄損傷者の方に、地域社会での生活について情報提供してもらうピアサポートの場。患者さん・ご家族の元気力アップと悩み解決に役立つ講座となるよう活動しています。

院内行事開催記録

★高校生１日看護体験研修★

今年も恒例の「高校生一日看護体験」を開催しました。

８月２日（水）、県内３校から35名の高校生が参加し、病棟で看護師とともにシャワー浴のお手伝いや食事の配膳など日常生活の介助を行ってもらい、終了後看護師と意見交換しました。

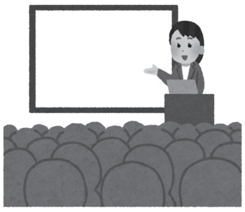
実際に体験することで看護に魅力ややりがいを感じていただき、アンケートでも９割以上の方から看護師になりたいと回答いただきました。将来この病院で一緒に働ける日が来ることを、看護師一同お待ちしております。

「中部ろうさい病院糖尿病週間イベント」をアピタ店内で開催します

世界糖尿病デー（11月14日）にちなんだ恒例のイベントを、今年もアピタ東海通店さんにご協力いただき開催することとしました。事前申し込み不要なので、ぜひご参加ください。

〇日時：平成29年11月10日（金）　13：30～15：30
〇場所：アピタ東海通店（港区港明一丁目10番28号）
〇イベント：①血糖・血圧測定、InBody測定（当日整理券配布）
　内容　　　②医師、薬剤師、管理栄養士、看護師による健康相談
　　　　　　③「血糖値が上がるのはどちら？クイズスタンプラリー」
　　　　　　④糖尿病予防体操教室

第14回市民健康セミナーのご案内



テーマ：「がん医療の最前線　～胆道・膵臓がんと女性のがん～
〇日時：平成29年11月11日（土）13：30～15：30
〇場所：中部ろうさい病院 ２階講堂　　〇参加費：無料
〇プログラム
　・講演１「胆道・膵臓がんについて」　消化器内科部長　児玉　佳子
　・講演２「知っておこう 女性特有のがん～女性として、母として～
　　　　名古屋大学大学院医学系研究科副研究科長、産婦人科主任教授　吉川　史隆
〇ご興味がおありの方はぜひご参加ください。
　・申込方法：往復はがき、FAX、Eメールなどで下記事項を記載の上お申込みください。
　　①郵便番号・住所　②氏名（ふりがな）　③参加人数　④連絡先（電話、FAX、E-mail）
　・問合せ先：中部ろうさい病院　経営企画課
　　電話：052-652-5511　FAX：052-653-3533　E-mail：seminar@chubuh.johas.go.jp

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

・医療の質の向上と安全管理の徹底
・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

～ 編集後記 ～

当院では市民健康セミナーを行っており、今号では第13回市民健康セミナーの要点をご報告しました。健康で長生きのために、日ごろから少し早歩きを加えた運動に心がけることが大切です。次回市民健康セミナーは平成29年11月11日です。今号のご案内をご確認の上ご参加ください。

（E・S）